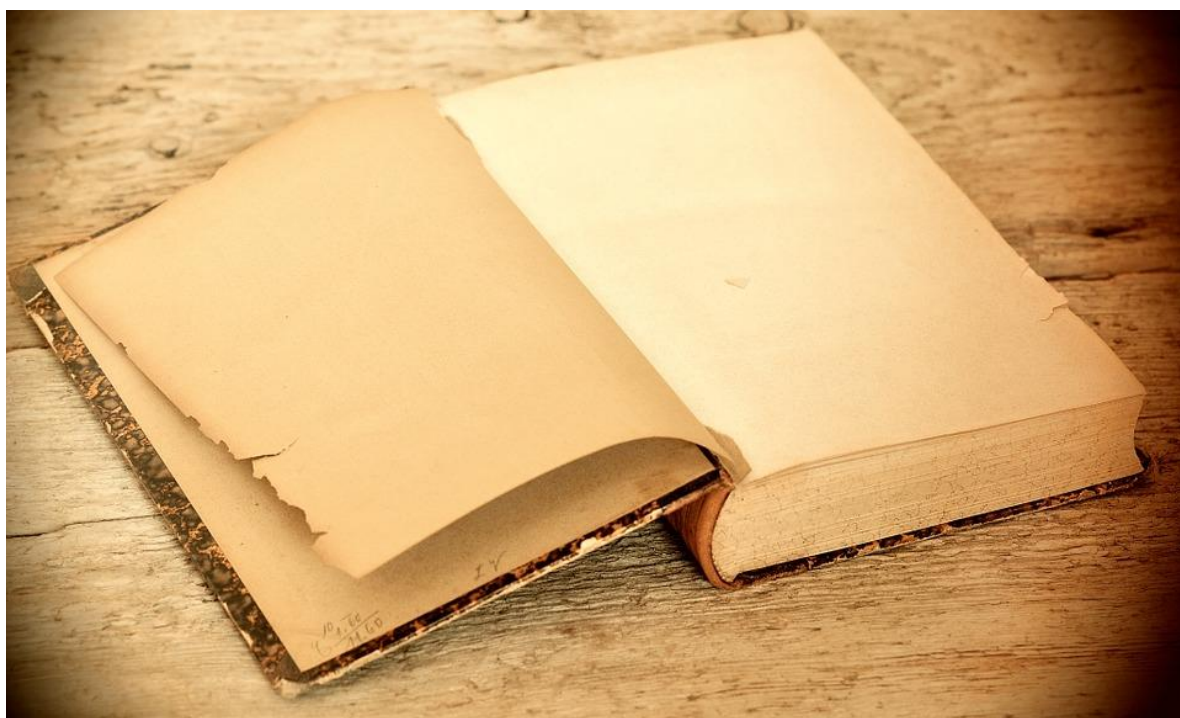


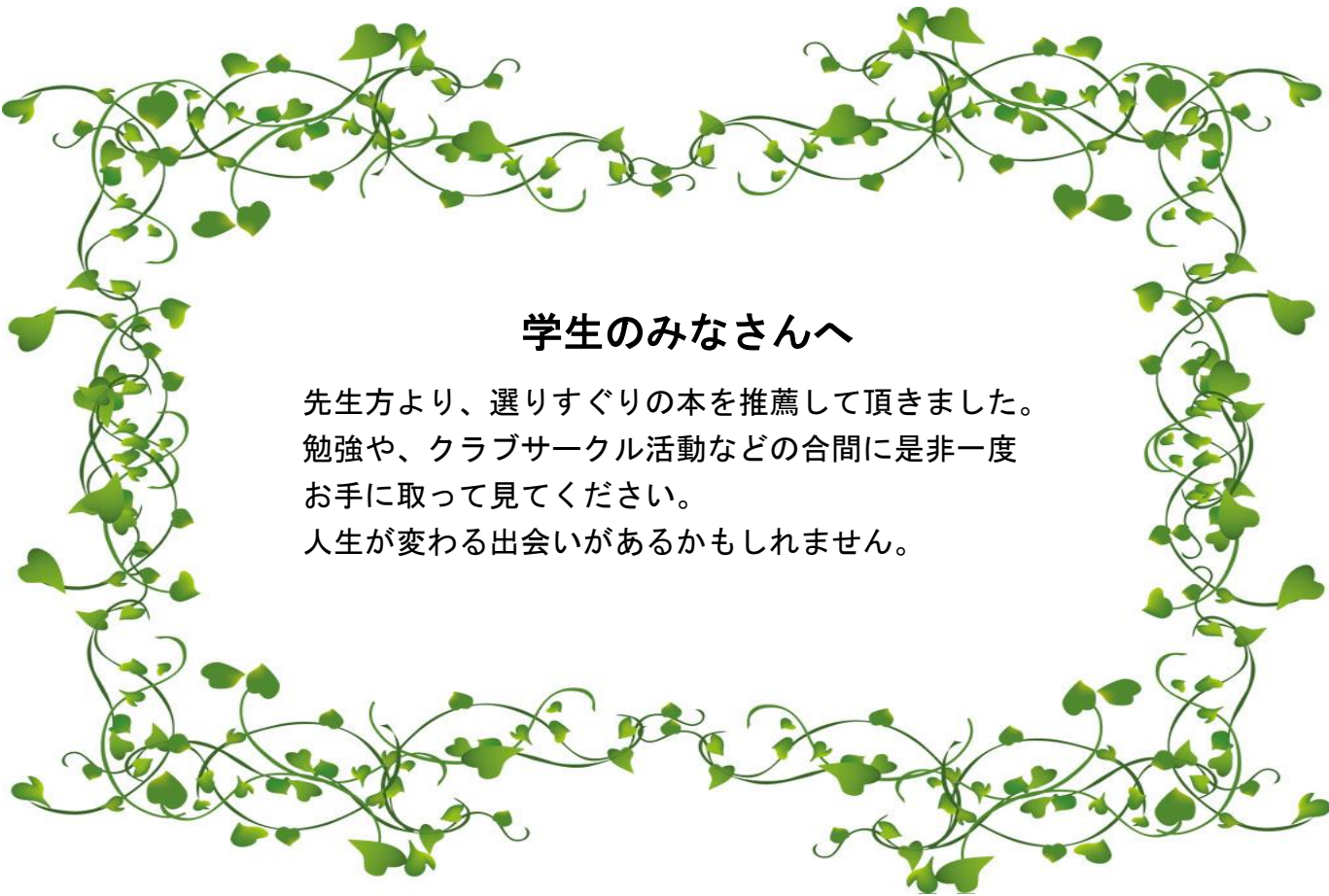
2017年度

君に薦める一冊の本



大阪工業大学図書館

2018年3月31日発行



学生のみなさんへ

先生方より、選りすぐりの本を推薦して頂きました。
勉強や、クラブサークル活動などの合間には是非一度
お手に取って見てください。
人生が変わる出会いがあるかもしれません。



都市デザイン工学科

今川 雄亮 先生

『鉄の骨』 池井戸 潤

/ 講談社

請求記号

資料 ID

大宮本館 : 913.6//I

91171810

梅田分館 : 913.6//I

97171205

枚方分館 : 080//K

98171200

NO
PICTURE

建設業界の闇といわれる「談合」をテーマにした小説です。過去からするとほとんど無くなった談合ですが、今でもたまに新聞やニュースなどで話題となっています。

この小説は、「談合が悪いとわかっていてなぜ無くならないのか？」ということを通じて、「技術者倫理とは何か?」、「自分ならどう行動すべきか?」を考えるきっかけになると思います。



応用化学科

村田 理尚 先生

NO
PICTURE

『風と共に去りぬ』 マーガレット・ミッチェル / 岩波書店など

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 933.7//M//1~5	91041589 (他 4 冊)
梅田分館 : 933.7//M//1~6	97171620 (他 5 冊)
枚方分館 : 080//1	98171184 (他 5 冊)

アメリカの南北戦争についてのイメージが湧くばかりでなく、主人公のスカーレット・オハラ生き方・考え方を通して学ぶべきことは多いと思います。私のアメリカの友人にこの本のことを聞くと、「あれはアメリカでは女性が読む本だよ」と言いかけて、慌てて「冗談だよ」と言っていました。彼のコメントの真意はともかく、世界的に有名な本ですから、ぜひともご一読を！



応用化学科

村田 理尚 先生

NO
PICTURE

『クライマーズ・ハイ』 横山 秀夫 / 文藝春秋

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 913.6//Y	91171811
梅田分館 : 913.6//Y	97171206
枚方分館 : 080//B	98080524

ずいぶん以前に知人に薦められて読みました。日航機が墜落したときの緊迫した出来事を通して物語は進行していきますが、何と言っても、「下りるために登るんさ」というセリフが出てくるシーンは忘れられません。人生できつい仕事があったとき、この言葉を思い出して、気力を奮い立たせることがよくあります。すでに読んだ人は多いと思いますが、自信をもっておすすめします。



環境工学科

長田 昭義 先生

NO
PICTURE

『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』

山中 伸弥 他 / 文藝春秋

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 159.7//B	91170885
梅田分館 : 159.7//B	97170629
枚方分館 : 081//B//1118	98161758

それぞれの分野において偉業を成し遂げている 4 人の方々による講演とそのあとの永田氏との対談を収めたものです。講演・対談は「マイ・チャレンジ 一步踏み出せば、何かが始まる!」という企画で、彼らも自分たちと同じ若いころは、自分とあまりかわらなかったのだと実感してほしいというのがねらいだそうです。若者たち、学生たちのネガティブな心性になんとか風穴を開けたいという。是非、話を聞いてみて、一步を踏み出してほしい。



総合人間学系教室

藏蘭 和也 先生

NO
PICTURE

『なぜ、いいことを考えると「いいことが起こる」のか』

和田 秀樹 / 新講社

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 159//W	91080413

自分に自信がなく、自分は欠点だらけの人間だと思っていると、何をしても上手くいかないことが多い。そんな悩みを抱えた人を、この本は前向きな気持ちにしてくれる。物事には何にでも二面性(長所・短所)があるけれど、自分や友達、そして物事のよい面に気付き、毎日楽しく過ごしていきたい。



知的財産研究科

山田 繁和 先生

NO
PICTURE

『ワンピースの言葉』 遠越 段 / 総合法令出版

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 726.101//T	91171812
梅田分館 : 726.101//T	97171626
枚方分館 : 726.101//T	98171191

マンガの「ワンピース」は、主人公や登場人物が、様々な冒険をする長篇マンガですが、主人公や登場人物は、様々な苦難な場面でも、友や仲間を信じ、前向いて苦難を乗り越えています。

それぞれの場面で、主人公や登場人物が発する言葉は、学生生活や社会人になった後でも行き詰った時に、そのシチュエーションとそれらの言葉を思い出すと、勇気が出てきて、前を向こう！と思えてくるものばかりです。

学生の皆さんも、主人公や登場人物が発する言葉の意味を知り、学生生活や社会生活での参考にしてみてください。



システムデザイン工学科

井上 明 先生

NO
PICTURE

『ワーク・シフト』 リンダ・グラットン / プレジデント社

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 366//G	91122060
梅田分館 : 366//G	97160240
枚方分館 : 366//G	98171491

「2025年、私たちはどのような働き方をしているのだろうか」。皆さんはこれからどのような社会がやってくるか興味はありませんか？

この本は、近い将来私たちの仕事や生活がもしかするとこのように変化するのではないかと、垣間見せてくれます。

理系の学生が多い本学の皆さんは、このようなビジネスや社会に関連する本を読む機会は少ないかもしれません。確かに自分の専門に関連する書籍を読むことは非常に重要です。それと同じぐらい、自分の専門とは関係のないような知識や考え方を知ること、人としての多様性を養うために重要です。ぜひ一度手に取り、この本が新しい世界を知るきっかけになればと思っています。



空間デザイン学科

郡 裕美 先生

『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス / 早川書房

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 933//K	19107448
梅田分館 : 933//K	97170296
枚方分館 : 080//H	98000158

NO
PICTURE

人間が生きる上で、本当に大切なことはなにか？
 本当の知性とは？
 本当の優しさとは？
 勉強に疲れたとき、友達関係がうまく行かなくなったとき、
 人生の目的がわからなくなった時、この本を手にとって見てください。
 これは、文学というメディアをうまく使った素晴らしい芸術作品でもあります。



情報システム学科

黒川 尚彦 先生

『知的人生のための考え方～わたしの人生観・歴史観』
渡部 昇一 / PHP

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 159//W	91171144
梅田分館 : 159//W	97170626
枚方分館 : 081//P//1102	98170637

NO
PICTURE

残念ながら今年の4月永眠された渡部昇一による人生観と歴史観を高めるための数々の視点が紹介された本である。氏は生前「知の巨人」と呼ばれていたが、それは単に膨大な知識があるということではなく、それに基づいた思索によるということがこの本から読み取れる。「自分とはいったい何なのか、何者なのか」と悩むことがあれば、人生観について書かれた前半からその解決のヒントが得られるだろう。後半の歴史観は人としての道を正しい方向に向かわせるだろう。知の巨人が残した智を受け継いでみませんか。



情報メディア学科

古樋 直己 先生

『深夜特急』

沢木 耕太郎 / 新潮社

NO
PICTURE

請求記号

資料 ID

大宮本館 : 915.6//S//1~3

19208404 (他 2 冊)

梅田分館 : 915.6//S//1~6

97171207 (他 5 冊)

枚方分館 : 080//S

98000308 (他 5 冊)

『深夜特急』といっても電車の話ではありません。デリーからロンドンまでバス旅です。ざっと 7000 キロ。稚内から鹿児島 (2000 キロ弱) の 3 倍か、大した事ないと早合点しないでください。日本ではありませんから。後にテレビドラマ化され、今でも DVD の購入、レンタルも可能です。本を読んで、ドラマを見て、時間を無駄にした、と感じることはないでしょう。



教職教室

荻野 和俊 先生

『バッタを倒しにアフリカへ』

前野ウルド浩太郎 / 光文社

NO
PICTURE

請求記号

資料 ID

大宮本館 : 486.45//M

91170763

梅田分館 : 486.45//M

97170599

枚方分館 : 081//K//883

98170535

空全体を真っ黒におおうバッタの群れ。アフリカではサバクトビバッタが農作物を食い荒らし、大飢饉が発生する。このバッタの研究と防除技術開発のために単身モーリタニアに乗り込んだ著者のドキドキ、ハラハラな物語だ。ハチャメチャな行動から「夢の実現のさせ方」や「外国文化の違い」「人のやさしさ」などが伝わってくるのが、この本を冒険談以上のものになっている。私は引き込まれて一気に読んでしまった。

「君に薦める一冊の本」の特別版が図書館報「ぱびろにくす」に掲載されています。
図書館報「ぱびろにくす」もぜひ合わせてご覧ください。



知的財産学科

水野 五郎 先生

『百年の孤独』

ガブリエル・ガルシア=マルケス (訳：鼓直) / 新潮社

NO
PICTURE

請求記号

資料 ID

大宮本館： 963||G

10605935

人にはそれぞれ、人生の宿題があるのだと思います。私のような生来の無精者には、宿題が山積しています。ガルシア=マルケス『百年の孤独』も、私にとっての人生の宿題の一つでした。本書との出会いは、30数年前、大学1年生のとき。寺山修司の映画『さらば箱舟』に触発されて、本書を読み始めました。しかし、さっぱり読解できず、僅か数十頁で挫折してしまいました。ノーベル文学賞受賞者の代表作。1967年に上梓され、3600万部の驚異的ベスト・セラー。わが国でも、寺山、中上健次、大江健三郎、筒井康隆らが本書に熱狂し、影響を受けたとのこと。間違いなく文学的価値が高く、面白いのですが、当時の私には読了すらすることができず、ガルシア=マルケスは私のトラウマになっていました。

このトラウマを解消してくれたのは、輪読会です。知人との雑談で、本書に挫折した人が意外に多いことが判明しました。そこで本書の輪読会を開催したのです。年齢、性別、職業もバラバラの8人。共通点は、『百年の孤独』に挫折したことのみ。もちろん文学の専門家はいません。「この章は要するにどうゆう話なの？」とか「この人、誰？」といった、内容確認から始めた、ゆるい輪読会でした。500頁ほどの本ですが、半年ほどかけて読了。参加者全員が、トラウマを克服できました。

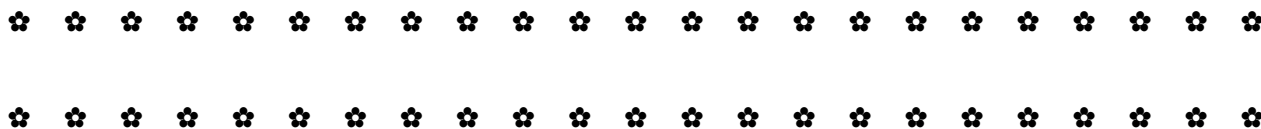
読了してしまえば、世界中の読者が熱狂したことも納得できる、とても面白い本でした。簡単に言えば、南米コロンビアの山間僻地に暮らす、ブエンディア家7世代の群像劇です。細かな情景描写や心理描写などは皆無で、奇怪なエピソードが無数に羅列されています。あらすじが意味を成さず、さながら南米の『百物語』といった様相です。

【p. 9 へつづく】

本書が難解だとされる理由は、①物語が時系列に沿って進まないことと、②同じ名前の人が多数登場すること(アウレリャノは22名登場)の2点だと思います。輪読会では、皆でパズルを解くようにこれらの問題を克服し、その謎解き共同作業がかえって会を盛り上げてくれました。

本稿は、お勧めの本を紹介する記事なのですが、もう一つ皆さんにお勧めしたいものがあります。それは、輪読会です。「ぱぴろにくす」本号は、ビブリオバトル特集とのこと。ビブリオバトルと輪読会は相互補完の関係にあると思います。ビブリオバトルの起源は、輪読会の活性化にあったそうです(谷口忠大『ビブリオバトル』(2013年、文春新書)111-123頁)。ビブリオバトルは、新たな本と出会い、発表者の人となりを理解できるという点で優れた装置です。しかしそこで出会った本には結局、一人で向き合わざるを得ません。上述の通り、難読書でも輪読会なら何とかなることもあります。また輪読会では自分とは異なる他者の読み方に触れ、自身の読みを広げ、深めることもできます。ビブリオバトルのチャンプ本を課題本にして、輪読会を開催するのも良いでしょう。また輪読会でその本の新たな魅力を発見し、それをビブリオバトルで発表するのも良いでしょう。ぜひ本を通じて、様々な人と交流してください。

大阪工業大学図書館報「ぱぴろにくす」
105号(2018年1月発行)
「君に薦める一冊の本」p.5掲載





『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

新井 紀子 / 東洋経済新報社

NO
PICTURE

請求記号	資料 ID
大宮本館 : 007.13 A	91172312
梅田分館 : 007.13 A	97171644
枚方分館 : 007.13 A	98171446

シンギュラリティとは、人工知能研究者のレイ・カーツワイルが世界に広めた言葉で、「技術的特異点」と訳されています。彼は、「テクノロジーが急速に変化し、それにより甚大な影響をもたらされ、人間の生活が後戻りできないほどに変容してしまうような、来るべき未来」と定義し、2045年に到来すると预言しています[1]。簡単に言うと、人工知能が人間を超えるというわけですが、そうなるでしょうか。

さて、皆さんは、人工知能（AI）という言葉から何を思い浮かべるでしょうか。おそらく、Google Home や Amazon Echo などのスマートスピーカー、世界トップの囲碁棋士に圧勝した Google のアルファ碁プログラム、あるいは車の自動運転でしょうか。いやもっと身近に、Siri を愛用している人も多いかもしれません。AI は、情報だけでなくロボットにも、さらには知的財産にも関係するので、ぜひその概要を知っておくとよいでしょう。そこでお薦めするのが、新井紀子著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』東洋経済新報社（2018.2）です。

新井さんは2010年に、『コンピュータが仕事を奪う』というセンセーショナルなタイトルの本を出版されています[2]。実際、現金自動預け払い機（ATM）の登場によって銀行の窓口で預金の出し入れを扱う業務は激減し、機械化が進んでいますね。新井さんが2011年からスタートした「ロボットは東大に入れるか」という研究プロジェクトは、大学入試全受験者50万人の上位20%に入るレベルの成績を得る東ロボくんを作りました。この東ロボのAIの開発には、本学情報科学部の平先生も参画しておられました。ただ、好成績をあげたといっても、東ロボのAIにできたのは、大量の学習データから正解を推測することであって、文章の意味を理解することはできなかった、とプロジェクトリーダーの新井紀子さんは表明されています。コンピュータは大量のデータを高速に記憶・処理できるので、そういった能力面ではAIはすでに人間を超えています。しかし新井さんは、シンギュラリティは来ないと主張しています。それはなぜか。新井さんは2つの著書で、コンピュータができること・できないことを、数学を背景としてやさしい語り口でかつ決然と述べています。ぜひ読んでみてください。まさに快刀乱麻ですよ。

【p. 11 へつづく】

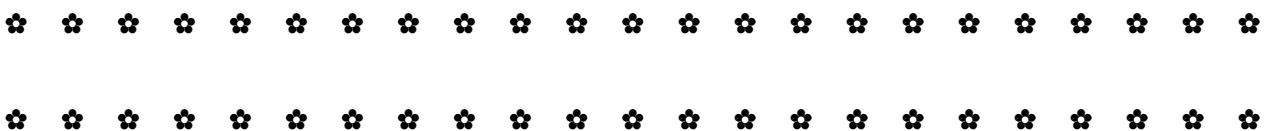
AI の能力は機械学習と呼ばれますが、深層学習（ディープ・ラーニング）、強化学習、モンテカルロ法といった複数の手法があります。このあたりの話は、将棋プログラム「ポナンザ」の作者の山本さんの本がわかりやすいかもしれません[3]。複数の手法のどれが良いのかは研究レベルでも結論づけられないのが現状で、たいていは複数の手法を組み合わせることでAI を賢くさせています。しかし、2017年10月には、モンテカルロ法を使わずに囲碁のルールだけ使った強化学習で従来のアルファ碁に圧勝するアルファ碁ゼロが出現し、技術的にも注目されます。AI のことを感動的につかめたら、次の問題を考えてみてください。

- 問1. AI の権利問題。AI を利用して得た利益は、AI を利用した企業のものか、AI を開発した企業のものか。これは知的財産に関わる問題で、経済産業省が検討しているようです。
- 問2. AI の倫理問題。例えば自動運転の車のブレーキが故障して、前方には歩行者が大勢いる、左側の壁に車をぶついたら歩行者は助かるが乗員は助からない、といった状況ではAI がどう判断するように技術者は設計すべきでしょうか。技術者倫理として考えてみましょう。

【参考図書】

- [1] レイ・カーツワイル著『シングュラリティは近い：人類が生命を超越するとき』エッセンス版 NHK 出版（2016.4）
- [2] 新井紀子著『コンピュータが仕事を奪う』日本経済新聞出版社（2010.12）
- [3] 山本一成著『人工知能はどのようにして「名人」を超えたのか？：最強の将棋 AI ポナンザの開発者が教える機械学習・深層学習・強化学習の本質』ダイヤモンド社（2017.4）

大阪工業大学図書館報「ぱぴろにくす」
106号（2018年4月発行）
「君に薦める一冊の本」p.5 掲載





☆ 紹介された本は「君に薦める一冊の本」コーナーに展示してあります。